

中野区教育委員会会議録 平成22年第4回臨時会

○開会日 平成22年7月30日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後1時01分

○閉 会 午後2時30分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員長職務代理	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(5名)

教育委員会事務局次長	合 川 昭
副参事(教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治 (欠席)
副参事(学校教育担当)	古 屋 勉
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(生涯学習担当)	飯 塚 太 郎 (欠席)
中央図書館長(統括)	小谷松 弘 市 (欠席)
統括指導主事	杉 山 勇

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	飛鳥馬 健 次
-----	---------

委員

高木明郎

○傍聴者数 0人

○議事日程

[協議事項]

(1) 教科書採択について

中野区 教育委員会
第4回臨時会
(平成22年7月30日)

午後1時01分開会

飛鳥馬委員長

ただいまから教育委員会第4回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、高木委員にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりでございます。

本日、事務局職員は、協議事項の教科書採択に係る職員として、次長、教育経営担当、学校教育担当、指導室長に出席をお願いしておりますので、ご了承ください。

また、教科書採択に関する職員として、統括指導主事に出席を求めていますので、ご了承ください。

それでは、日程に入ります。

<協議事項>

飛鳥馬委員長

協議事項「教科書採択について」の協議を進めます。

ここで委員会運営について確認をいたします。

教科書採択に関する教育委員会の審議過程につきましては、「中野区立学校教科用図書」の採択に関する規則第10条の規定に基づき、採択が行われる日の前日までの間は、非公開とすることが定められています。7月28日の臨時会で確認しましたとおり、本日の臨時会も非公開とさせていただきます。

(平成22年第24回定例会において公開の議決がされたため、以下の非公開部分を公開)

飛鳥馬委員長

それでは、午前中に引き続いて協議を進めたいと思います。

最初に、図工についての協議を進めます。委員の発言順ですが、高木委員、大島委員、山田委員、それから教育長、私という順番で発言をお願いしたいと思います。

それでは、高木委員、よろしくお願いします。

高木委員

図画工作でございますが、東京書籍、開隆堂出版、日本文教出版の3社から教科書が出されております。教科の目標が、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくり出す喜びを味わうようにするとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊か

な情操を養う」ということをございます。

中野の子どもたちの図工を考えたときに、子どもたちが自分たちの行為ですとか、感覚、形、イメージ、こういったものをきちっと表現していくというところが大切なのかなど。私の子どもが作品などを持ってくるのを見ると、昔の図画工作よりも、テクニク的なことを見るのではなくて、子どもたちが自分たちなりの作品をつくっていくということにすごく重点を置いて指導していただいているなと感じているところをございます。

学校公開等で学校の現場を見る機会が多いのですけれども、現場でどういうふうに教科書が使われているのかというのがちょっとわかりにくいところが採択をするときに非常に難しいなと思っているところなのです。

3社とも、昔の図工の教科書に比べますと非常にカラフルで、写真も大きくて見やすいと思っております。特に3社の中では、開隆堂出版が子どもたちなりの作品をつくっていくということだと非常に趣旨に合っているのではないのかなと思います。あと、開隆堂出版さんの場合は、目次のところが非常にわかりやすくなっていて、ほかの教科でも、ほかの出版社を見ると、こんな形によけて見られるところがあるので、これも一つ、工夫としていいかなと思っております。図工はなかなか難しいところなのですが、私としては、開隆堂出版がいいかなというところをございます。

飛鳥馬委員長

それでは、大島委員、お願いします。

大島委員

各社の教科書ともカラフルですし、いろいろな題材を取り上げていると、いろいろな材料を使ったものとかですね。ということで、みんな悪くはないと思います。

私が個人的に小学校のときから図画工作とか、美術がすごく苦手で、絵をかいたり、粘土とかで物をつくったりとか、本当に苦手だったので、そういう生徒の立場からでも、楽しくて、ちょっと自分でもやってみようかなという気になりやすいというのはどれかなという点から見ますと、東京書籍のものが一番楽しそうで、親しみやすかったという印象があります。

見かけ上のことで言いますと、東京書籍と開隆堂は、見開き、2ページを使って1項目の分量になっているのです。日本文教出版のものは、もちろんそういうものはあるのですけれども、一つのテーマで片側、1ページだけを使っていて、反対側は別のテーマになっているというものもあります。文教出版のものは作品の写真が割と小さいのが多い。やっ

ぱり小さいとイメージしにくいというところがあります。そういう点で、東京書籍と開隆堂のものは見開きで1テーマになっていることもありまして、例として挙げている作品が割と大きく写っているのでイメージがつかみやすいし、楽しい感じがするというのがあります。東京書籍のものが一番楽しそうな雰囲気。子どもが具体的にこういうふうにつくるのかなというようなイメージがわきやすいという感じがしました。

あとは、高木委員がおっしゃるように、開隆堂は、目次が見開きになっているというのもいいと思いますし、道具の使い方とかも丁寧に書いてありますし、いいと思うのですが、どういふふうにつくったらいいのだろうかということで、自分もできるかなという親しみやすさというのが、東京書籍が一番感じられたということです。

あとは、東京書籍のものは、各テーマの上の緑色の黒板みたいなイラストのところに「めあて」というのが書いてありまして、例えば、粘土を切ったりつけたりして、好きなものや想像したものをつくろうとか、のこぎりや金づちを使って木切れを切ったり、新しい形をつくろうとか、何をやるのだというのがはっきり書いてあって、そういうがあると、自分がどういふふうにやったらいいのかというきっかけになりやすい気がしました。それと、右端のほうにカラーインデックスというのがあるって、材料を集めるとか、切るとか、いろいろな項目で、ここではどういふ動作を使うのだということが示してあるのがわかりやすくいいかなと思いました。開隆堂のものも全く悪くなく、なかなか立派にできていると思うのですが、東京書籍が親しみやすいかなと思いました。

以上です。

飛鳥馬委員長

では、山田委員、お願いします。

山田委員

図画工作ですけども、表現、それから鑑賞という二つに分かれてくるのではないかなと思います。教科書としては3社の出版社から出ておりますけれども、装丁のやり方では、東京書籍が低・中・高学年の2学年で教科書を1冊にまとめているというところですけども、開隆堂と日本文教出版は上下に分けておりますので、計6冊ということで、レイアウトに違いがあります。どちらがどう使いやすいかはすぐに判断は難しいかもしれません。

取り上げ方の中で、特に児童の作品などが比較的取り上げられているのは日本文教出版かなと思いますけれども、一方では、開隆堂などは日本の伝統的なものも取り上げているような特徴があります。東京書籍は児童の活動の写真を多く取り上げているかなと思いま

した。

特に1・2年生の導入の部分で、開隆堂は図画工作で大切にしたいことというのを図で示していき、握手するところで心を開いて友達のことを知り、材料を楽しむというようなくくりで目次がつくられています。また、試したり、見つけたりするということで電球が光っているとか、形や色、方法や材料について調べてみるということでのマークがついているということで、振り返ってみると、こういうことを学んでいくのだなというようなことが書いてあります。一方で、日本文教出版も、先ほど大島委員がちょっとおっしゃっていましたが、「学習のめあて」ということで、「くふう」「きをつけよう」「かたづけ」「ふりかえり」というような記載があります。東京書籍は特別そういったことのレイアウトはないのですが、子どもたちにちょっとした工夫があるのは、アトムが全面的に押し出されていて、それからあと、ページをめくっていくと今子どもたちが好きな漫画が記載されています。こういうのは子どもたちにとっては受けるような内容にはなっているかなと。また、東京書籍は身近な題材を比較的多く使っているように思います。

あと、道具の話では、子どもたちが小学校で最初にいろいろと図画工作をしていく、作品をつくっていく中で、3社ともはさみの使い方とか、のりをどのように使うのかとか、そういうような記載が巻末に載っているのですが、開隆堂の切り方とか持ち方、のりをこういうふうに持つてしまうとくっついてしまうよとかというようなことで、比較的、子どもたちがわかりやすい記載が出ているように思います。そういった意味では、授業の中でいろいろと使っていく上では、比較的、開隆堂のものは授業の流れがつかみやすいのかなとあるのではないかなと思います。

3社ともそれなりのレイアウトをされていて、立派な教科書ですけども、子どもたちが使いやすいという視点からいくと、開隆堂出版が比較的、使いやすいのかなというふうに思いました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いします。

教育長

3社の教科書はそれぞれ各社とも工夫がされていて、一長一短あります。ただ、子どもたちが図画工作に親しみやすい教科書という視点で見ました。それから、特に低学年は学級担任が教えることが多くて、高学年になると専科の教員がというようなことを考え

ると、子どもたちに適切な配慮ができるような教科書という視点でも見てみました。

そういう視点で見えますと、開隆堂はやはり、どなたかの委員からもありましたけれども、開いてみると目次が懇切丁寧であったり、作品自体も子どもたちが身近なところでいろいろな工夫をしながらという素材が多く使われているように思いました。

一方、日本文教出版については大判なのですけれども、全体を見ますと、写真がちょっと小さかったり、解説の文章が多くて、図画工作ということでいうと、いろいろな作品を見ながら想像力を働かせたりするほうがいいかなということで、文章でいろいろ解説をしないほうがいいのではないかななどと思いました。

それから、東京書籍のほうも子どもたちの活動がいっぱい載っていて、数多く取り上げられているのですけれども、巻末に道具を扱うのは3社ともあるのですが、東京書籍は量的にはいっぱい取り上げているのですけれども、何かちょっとごちゃごちゃして見にくい。それよりは開隆堂の道具の扱い方のほうがすっきりしていて、わかりやすく説明をしているのではないかなと思いました。

ということで、全体的に見ますと、開隆堂を推したいと思います。

飛鳥馬委員長

それでは、私のほうからです。

私も開隆堂がいいかなと思います。開隆堂で一ついいなと思うのは、5・6年の下で、ブルーの囲みとかで、ブルーの字で、そのページに1個ぐらいずつ、子どもたちに特に気をつけてやってほしいことがわかりやすく書いてあるのです。図工で余り形にはめるのは問題があるかもしれませんが、ヒントとして、気をつけてみようとか、試してみようというのが出てくるので、そういう意味では、子どものきっかけにはなると思うのです。きっかけにして子どもの主体的な活動が阻害されるといけませんけれども、そうではないと思いますので、きっかけになるというぐらいのもので、導入としてはいいなと思います。それからあと、写真とか、色とか、そういうのも結構きれいです。

また、大事なことは、道具の使い方。さっきほかの方からも出ましたけれども、技法とか、基本的なことは、やっぱりしっかり教えないといけないのだろうと思うのです。何でも図工で自由に使えてやれたほうがいいのかもわからないのだけれども、押さえるところは押さえると。きちっと押さえるところは押さえて、基礎基本を身につけさせたいということと、主体的に自由にやらせるということが開隆堂はかなりはっきりしているのではないかなと思いますので、開隆堂がいいかなと思っています。

ほかの方も全部発言されましたが、大島委員は東書もかなり熱を入れて言ってくださいましたが、開隆堂はどうでしょうか。

大島委員

今のご意見にあったように、道具の使い方の点につきましては、東京書籍も載ってはいるのですが、確かに図が小さくてちょっと見にくいと。それに比べて開隆堂のほうは非常に大きい図で載っていて見やすいと。ですから、そういう道具の使い方についての説明という点では、開隆堂がすぐれているかなと思います。

東京書籍のほうが親しみやすい感じはしましたけれども、開隆堂が悪いという意味ではなく、開隆堂もいろいろな題材を用いて、それぞれ素晴らしい作品を提示してありますので、学ぶときのお手本という意味でも悪くありませんし、十分素晴らしい、いい教科書だとは思いますが。

飛鳥馬委員長

ほかの方はどうでしょうか。

山田委員

日本文教出版のところでコンピュータを使ったアニメーションをつくらうというような題材が出てくるのです。中野区はパソコンがかなり充実してきているのではないかなと思うのですが、小学校の高学年でデジタルカメラでアニメーションみたいところが出てくるのですけれども、学校の現場で、こういった図画工作の中でコンピュータとのかかわりといいますか、その辺は現場としてはどうなのでしょう。教えていただければと思います。

指導室長

コンピュータによる作品づくりですけれども、一つは、こういうソフトがどうなっているかということにもよると思います。ただ、図工の教員でコンピュータを使って何か作品をつくることをしているというのは聞いておりません。

飛鳥馬委員長

お絵かきソフト等がある学校は多いのですか。

指導室長

お絵かきソフトは全部の学校に入っておりますが、低学年のお子さんがコンピュータリテラシーを最初に勉強するという取っかかりで使って、マウスで絵をかいてみるということとは多くやっています。

飛鳥馬委員長

ということだそうです、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、各委員さんのご意見と、教科書採択基準からしますと、開隆堂が最適であると思いますので、図工に関しましては、開隆堂出版を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

異議がございませんので、図工は開隆堂出版を採択候補といたします。

それでは次に、家庭科の協議に移ります。

家庭科の委員さんの発言の順番は、大島委員、山田委員、高木委員、教育長、私という順番で発言をお願いします。

それでは最初に、大島委員、お願いします。

大島委員

家庭科は2社の教科書から選ぶということになりました。家庭科の教科の目標としましては、「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身につけるとともに、家庭生活を大切にす心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」ということとございます。

教科書全体を通して、今の家庭科の位置づけですけれども、日常生活の衣食住ということに関する基礎的な知識とか、生活態度を身につけるとということに加えて、最近の課題としましては、環境の問題ですとか、食育ということなども身につけるとということも加わってきているというふうに思います。

2社の教科書を見比べると、全体の印象としては、どちらもそれぞれ題材、取り上げているものも、内容もそんなに変わらないので、甲乙つけがたい、どちらでもいいとは思いますが。

ただ、比べてみますと、編集の仕方とか、編集方針が若干違うところがあると。例えば、東京書籍では、一番初めに本を開けたところで、学習の仕方の総括的なまとめのページがありまして、こういうふうに学習していくのだよというようなところで、「見つめよう」とか、「計画しよう・活動しよう」「生活に生かそう」というふうな編集方針というのでしよ

うか、そういうのが始めに出てきます。

一方、開隆堂のほうは、5年生と6年生でやることというようなことで、写真がいっぱい出ているのですけれども、ちょっと断片的な写真で、全体のまとめとしてどういうことを示そうとしているのかという意図がよくわからないというような感じがいたしました。

それから、中身は今言いましたように、扱っていることはそんなに大差ないのですけれども、目次のレイアウトが、私は東京書籍のほうが見やすい。上段を下段と二つに分けて、それをまた縦横で分けて、10個の長方形みたいなレイアウトになっていまして、それぞれに1、2と単元ごとに表題がついていて、その下に写真もついていると。これはよく雑誌などにあるようなレイアウトですね。一方の開隆堂のほうの目次は、さっき東京書籍で一番初めに出てきたみたいな、学習の仕方のまとめみたいなものを図にしたものが真ん中にあると、その左右に横書きで各単元の名前が書いてあるのですけれども、東京書籍のほうが見やすかったなという感じです。

東京書籍はその後で食育チェックというのと、それから環境チェックというのがあります。今非常に注目されているテーマについて取り上げています。これで児童の意識を高めようというようなところは非常にいいのではないかなと思いました。

それから、「見つめよう私の生活」というようなことに関するページが両方あるのですけれども、両方のレイアウトを比べてみると、東京書籍のほうは、1日の生活時間というのが書いてありまして、これも上下段にまず分けて、下段のほうをさらに二つに横に分けて、朝起きたときから、登校、下校とか、寝るまでを図解でかいてあるのです。時計が出てきていまして、これが非常に、時計とあわせて生活のリズムというのを考えようというようなことが、中野区では「早寝・早起き、朝ごはん」というのを推奨していますけれども、そういう点から見返りをするのに大変役に立つのではないかなと思います。

その点、開隆堂のほうは、やはり1日の生活時間が丸い円盤になっていまして、ぐるっと回るように書いてあるのですけれども、時計もイラストもかいてあるのですが、非常に見にくいし、よく見ないと時計がどうかかわからないようなイラストで、何時を指しているかというのもわかりにくい。これをぱっと見たときに、1日の生活時間のことをあらわしているというのがちょっとわかりにくい図かなというふうに私は見ましたので、この辺のところは東京書籍のほうの方がわかりやすいなと。

あと、料理といいますか、いろいろな基礎的な調理の仕方ですね。お米を炊くとかが両方にあるのですが、これも中身は本当にどちらも大差ないのです。ただ、見たところの見

やすさという点で、東京書籍のほうが、例えば、お米を洗うとか、炊くとかという、そういう字が多く書いてありました。どっちも見開きで、ちょうど中央あたりに帯状に流れがわかるように書いてあって、それは両方の教科書とも同じなのですが、その上に書いてある、今言った、炊くとか、お米を洗うとか、そういう字が大変大きくて見やすい。開隆堂のほうは帯の中に埋め込む形で書いてあって、ちょっと小さいというあたりが、東京書籍のほうが見やすい、はっきりわかっていいかなというような程度でしょうか。

そんなことで、あとは、例えば、栄養についての基礎知識とか、知識的なことも取り上げている中身はほとんど大差ないように思いました。レイアウトとかのちょっとした見やすさという点で、東京書籍のほうが私は多少いいかなというふうに思った次第です。

以上です。

飛鳥馬委員長

ありがとうございました。

では、山田委員、お願いします。

山田委員

家庭科は5・6年生で使う教科で、大島委員から発言がありましたように、東京書籍と開隆堂の2社から出ています。恐らく、中学校で習うであろう技術とか、家庭の内容との系統性だとか、連続性を重視して、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力を培うというところ。また、特に最近では食育ということが出てきましたので、食育とか、環境教育に配慮された教科書。どちらもその点については遜色ない取り上げ方をしているかなと思います。

これは後で指導室のほうからコメントをいただきたいのですが、ミシンというところがどちらの教科書にも出てくるのですが、指導要領の中でミシンというのはどのぐらいの取り上げ方をされているのか。といいますのは、恥ずかしながら私の家庭でもミシンというのはほとんど、何年間かお目にかかっているのですね。ただ、学校ではミシンというものを使った授業がなされている。どちらの教科書もかなりのページを割いてミシンの勉強をしているように思いました。その辺を後でコメントいただきたいと思います。

私は、先ほど大島委員からもお話がありましたように、「早寝・早起き、朝ごはん」というキャッチフレーズの中で朝食ということにポイントを当てて教科書を見ていきますと、東京書籍では68ページ以降、開隆堂では62ページ以降なのですが、特に東京書籍では、朝食と体温の関係がグラフになっていたり、朝食と健康の状態をグラフ化してあった

り、「どうして朝食が」ということがかなり科学的に書いてあって、恐らく理科の教材などとの関連がその辺で示されているのかなというところはすばらしい教科書ではないかなと思います。

私自身が料理というのは非常に不得手で、ほとんどできないに等しいのですけれども、例えば、これを見て野菜炒めをつくろうかと思ったときに、左から右に流れていく構図はどちらも同じなのですが、特に東京書籍の場合には、どちらにも書いてあるのですけれども、わかりやすくニンジンの切り方とか、ピーマンなどについてよくここまで丁寧に書いてあるなど。これが手元にあれば野菜炒めぐらいつくれるようになるのかなという気がいたしました。また、フライパンの使い方などもどちらも丁寧に書いてありますが、東京書籍では、きちんとフライパンの柄をしっかりと持ちなさいとか、油は全体に行き渡るようにしなさいとか、かなり料理教室並みに書いてあるというふうに思います。

あと、どちらも、例えば、開隆堂では、「ふり返ろう・生かそう」というような形で書いてありますし、東京書籍では、「これだけはできるようになろう」というように書いてあるので、私などは、「これだけはできるようになろう」ということをやれば少しぐらいのクッキングができるようになるのかなと思います。

そういった意味で、全体として、食育などの点からの配慮、それから学校の現場では、多分、子どもたちは家庭科の料理実習というのは非常に楽しくやっていますけれども、安全面の配慮があるということがよりよく書かれている東京書籍は、よく書かれている教科書ではないかなと思いました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

家庭科でございます。「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して」というところがポイントなのかなと思っております。東京書籍、開隆堂と2社ありますが、ほかの委員も指摘されたように、本当に甲乙つけがたいというか、両方とも非常にわかりやすい教科書になっているなと思います。

細かいところでいいますと、例えば、東京書籍の77ページのところで、夏をどうやって過ごすのかというところで、緑のカーテンが写真で載っていて、これは中野区が各校で進めているところなので、この部分が中野の子どもには腑に落ちるのかなとか。同じよう

な記述があるのですが、開隆堂のほうは緑のカーテンということではないですね。

あと、例えば、両方とも日本の食文化ということで、お茶の入れ方というのが入っているのですが、東京書籍のほうは、14ページ、15ページで見開きを使って、お湯を沸かすところから、お茶を入れて、お盆に載せて出すと。

一方、開隆堂のほうは、まず、お湯を沸かしてみようという見開きがあって、お茶を入れようは別の59ページなのです。お湯を沸かすことも大切なのです。カップ麺に入れるとかでお湯だけ沸かすこともあると思うのですけれども、一連の流れから言うと、見開きでお茶を入れるということが入っていたほうが、「実践的・体験的な活動を通して」ということだと、若干、東京書籍のほうが具体的かなと思いますので、私も東京書籍が適切だと思います。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いします。

教育長

他の委員も言われたように、東京書籍、それから開隆堂とも、ほとんど構成も似ていますし、さまざまな工夫も優劣つけがたいという印象でした。

ただ、表示の方法ですとか、説明の仕方を十分比べてみますと、やはり東京書籍のほうの方がわかりやすく、懇切丁寧なところに工夫があるのかなというふうに思いました。特に、流れがスムーズというか、計画をして、行動をして、生活に生かすという、そういうポリシーが明確に読みとれるのも東京書籍のほうかなというふうに思いました。

取り上げ方が同じなので、それぞれのところをいろいろ比べてみると、やっぱり少しづつ工夫が東京書籍のほうがあるのかなと思ったのが、両方とも94ページのところに同じなのですけれども、開隆堂は「くふうしよう、楽しい食事」、東京書籍のほうは「まかせてね今日の食事」ということで、家族に食事をつくるということなのです。東京書籍のほうは導入から入って行って、次の96ページで献立をつくるのですけれども、献立が主食、汁物、おかずというお皿が並んでいて、そこで献立を工夫しようということなのです。開隆堂の95ページのほうの1食分の献立の考え方というのが、ご飯・パン・麺のどれかを決めます。汁物を決めますということで、これはどれでも選んでねということなのでしょうけれども、ちゃんと説明をしてあげないと、パンに味噌汁を選んでもいいのかなと思ったりもするのかなと、ちょっと思ったりもしました。次に献立を考えていくのですけれども、東京書籍のほうは98ページになります。計画する、買うというところから始まって、作り方が出

ています。つくった後、102ページのほうでは、「食事をもっと楽しくしよう」ということで、テーブルのセッティングの方法とか、テーブルの周りにお花を飾ったりとか、お客様の玄関の靴をそろえるとか、悪いマナーの例とかというのが出ているのです。開隆堂のほうは、100ページになるのですけれども、「家族と楽しく食事をしよう」ということでは、ただ単にご飯をつくれればいいのかなみたいなことになっているので、一つの單元でもさまざまな広がりがあるのが東京書籍かなというふうに思いました。

以上です。

飛鳥馬委員長

私だけ1人、開隆堂がいいなと思っているのですけれども。

理由は、衣食住ですけれども、見たときに、食育とか、調理とか、東京書籍が丁寧だという見方もあると思うのですけれども、全体的に見ると、開隆堂のほうがちよっと多く取り上げているのかなという気がしたのです。当初、東京書籍のほう衣服とか、住居とか、そういうところがちよっと多いのかなと。そんなに変わりはないのだけれども。食べるほうとか、つくるほうがいいなと思ったものですから。チャレンジしてみよう、野菜炒めをつくってみようというのがたくさん出てきたり、日常的に実践できるというような気がしました。

それにしても、この2社はいつもどちらか迷うということなので、私も開隆堂でなければ困るということはありませんので、東書でいいと思います。

では、ほかの意見をどうぞ。

高木委員

指導室に質問したいのですが、デジタルの教材は、例えば、中野区のICTを使った教育でうまく使えるような内容なのでしょうか。それとも、ただ単にそういうのがありますよというレベルなのでしょうか。

指導室長

今回の教科書は家庭科に限らず、多くの教科書会社があわせてデジタル教科書をつくっています。国語もそうです。これはこの教科書とは全く別に、それぞれ単体で買い求めて、授業で使うということですので、特段、これだからこれを使わなければいけないということではございません。

飛鳥馬委員長

では、ついでにミシンの話をお願いします。

指導室長

学習指導要領上では、「生活に役立つ物の製作について」ということで、「手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること」とございますので、必ず指導するということになります。特にミシンの場合は、早く丈夫に縫えるということで、手縫いかミシンかを選びながら製作をしていくということがございます。したがって、どの学校にも備品としてミシンがあるということでございます。

飛鳥馬委員長

ミシンのところはかなり質、量ともに多いのですね。ページも多いし、丁寧に内容的にも豊富です。それほど家庭ではやっていないというのが実態だと思うのですが、指導要領ではそうなっているということです。よろしいですか。

あとはご意見、ご質問ございませんか。

ありがとうございました。

各委員の皆さんのご意見、それから教科書採択基準からしますと、東京書籍が最適であると思いますので、家庭科につきましては、東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

ご異議がございませんので、家庭科は東京書籍を採択候補といたします。

それでは次に、保健のほうに移ります。

保健の発言の順番ですが、山田委員、高木委員、大島委員、教育長、私の順番で発言をお願いします。

では最初に、山田委員、お願いします。

山田委員

保健ですけれども、教科名としては、体育・保健体育ということではないかなと思うのですが、実際に小学校の課程の中で、特に中野区では体力向上ということをかなり打ち出しているのです。保健の取り上げ方というのはなかなか難しいのかなと。時間数も、3・4年生で約8時間程度、5・6年生で16時間ということですから、教科書としてはまとまった形での授業のときに使えるような教科書がどうしても必要なのだろうと思います。

それからあと、他の教科書との兼ね合いですかね。特に理科とか、生活科とのオーバー

ラップといますか、振り返りもあったり、スパイラルもあったりするでしょうけれども、そういったことも大切なのだろうと思います。

あと、最近、子どもたちの学校の生活の中ではけがが多いですから、けがの防止とか、そういったものも教科としてどこかで学びとる必要があるのではないかなと思います。学校の現場の中では、担任の先生が、恐らくは養護の先生と一緒にってといますか、チームティーチングみたいな形で行われているのではないかなというふうに思っています。

私は前回の教科書の採択のときと今回とを比べて、特に5・6年で感染症などの取り上げ方が今回の教科書は幅広くなり過ぎて、例えば気になっているのは、エイズという病気が先進国では日本だけふえているわけですが、そういった取り上げ方が少し弱くなってしまっている。去年はやった新型インフルエンザなどを取り上げてしまった関係で、全体としてそういったことが弱くなっているということで、感染症などのとらえ方は、今後、教科書の中でどのようにしていくのか。新たな新興感染症なども出てきますので、そういった面では教える側としてはなかなか難しい話になるのかなという気がいたします。

また、理科の教科書の中で、先ほど皆さんと協議した中では、生命誕生のところ、図解がかなりきれいになった教科書が示されておりますけれども、その中で、保健の教科書の中では、第二次性徴がそろそろ始まってくるころでの子どもたちの身体的な変化の取り上げ方なども、理科の教材との兼ね合いの中で、また、生命の誕生ということでの広い意味での性教育的な話についても、教科としては大切なことではないかなと思っております。

時間数が非常に少ないので、教科書として書き込みの欄が多いか少ないかも一つのポイントかなと思うのです。書き込みの欄は大日本図書ですとか、光文書院、学研などが比較的、多く取り上げています。

それから話し合い、いわゆる問題解決型ということで、話し合いというものを重視しているのは東京書籍などのほうがいいのかと思います。

一方で、学校保健安全法ということで、地域の中での学校の安全ということになりますと、保健所など、地域での関係機関との連携ということを視点に見まして、どの教科書も保健所とか、保健センターとの情報交換とか、情報提供、それから先ほど言いました、予防接種などの取り上げ方が比較的どの教科書も丁寧にされておりますけれども、よく書かれているのは、学研とか、大日本図書が比較的よく書かれているかなと思いました。

あと、安全ということも大切なことではないかなと思いますけれども、安全マップなど

を示している教科書。例えば、東京書籍の安全マップとか、学研の安全マップなども出ておりました。

どの教科書も非常によく書かれているかと思えますけれども、先ほども言いましたように、保健は身につけた知識がすぐに実践できるようにという視点も大切だと思うのです。そういった中では、学研とか、東京書籍が比較的、子どもたちにとってはわかりやすく出ているのかなど。東京書籍では、他の教科とか、他の学年との内容のつながりとか、振り返りなどは比較的、よくできているように思いました。学研は、ちょっとおもしろいところでは、医学や保健の分野で活躍した日本人ということで、人を紹介して身近に考えるということが書かれておりました。書き込みなどの適切さなども考え合わせますと、学研と東京書籍が比較的、使いやすいのかなと思っております。最初にお話しました、エイズのことでの記事が丁寧に書かれているのは文教社と考えられますが、そのほかの点で学研と東京書籍が比較的、よく書かれていると思っております。

私からは以上であります。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

保健、教科・体育は、山田委員もおっしゃったように、時間数が短いですし、項目としては、5社がそんなには違わないので、非常に難しいところだと思っております。

学校からの意見の中で、非常に意見が分かれていたのが、第二次性徴のときの男女の違いのときに「写真はどうなの？」と問題提起をされた教員が何人かいたのです。私個人的には、この程度は今普通にあるのかなと思うのですが、ただやっぱり、現場の意見ということを考えますと、東京書籍と光文書院は、小1と青年期の水着の男女の写真とかですね。服を着ていない青年期の男女の絵というのは、何%かの先生はちょっと抵抗があるということなので、それを押して推す理由があればこれでもいいと思うのですが、ほかの部分が同じであれば、どうなのかなというのが1点あります。

内容を見ていったときに、8時間、16時間で時間的にも、ほかの教科との組みかえの中の時間割でやっていくときに、専用ノートというのは子どもがなかなか用意できないのかなと思うと、いろいろなところで教科書に書き込んで学習ができるような教科書がいいのではないのかなと思います。

そうしますと、非常にこれも難しくて甲乙つけがたいのですが、学研、あるいは大日本

図書が適切ではないのかなと。山田委員がおっしゃっていたように、学研は感染症ですか、あとはたばこの害とか、そういうところをきちんと押さえているので、学研か大日本図書がいいかなと私は思います。

飛鳥馬委員長

では、大島委員、お願いします。

大島委員

皆さんからご指摘のように、本当に時間数が少ない中では、教科書がこれだけあるけれども、やり切れるのだろうかという危惧もあるぐらいなのです。ただ、もちろん内容的には、人間として基礎的に知っておかなければいけない自分の体のこととか、健康についてのことですので、大変大事な教科だろうと思います。特に、薬といますか、たばこの害とか、薬物の害とか、そういうことについての意識もやはり持ってほしいなという意味でも、大事な教科だろうと思っております。

各社、内容的にはそんなに違いがないし、みんな必要なことは大体ちゃんと説明されているように思いましたので、その中でどれというのも難しいのですが、私は、今お話に出ました、成長の中で男女の違いが出てくるころの扱い方に注目して見てみたわけです。3・4年での保健の授業ということで、そこで体も男女の差がだんだん出てくるというような、違いが出てくるというようなことをあらわすところで、水着の男女の写真を使っているのが東京書籍とか、光文書院とかなわけです。例えば、大日本図書は、Tシャツとスラックスという、洋服を着た人間のイラストが出てくる。学研は体操着を着ているのが出てくる。文教社は余りはっきりしたイラストはない感じです。そういうような扱いで、子どもたちは水着の実際の人間の写真というのを、どうも自分たちに近い感じがしてちょっと抵抗があると感じている子も多いという意見を聞いたりしたものですから、そういう意味では、水着でないほうが抵抗がないのかなというふうに思う。

そのところに関連して、異性を意識し始めるという項目があって、そこで、異性と仲よくしたいけれども、反発するとか、幾つかあるわけですね。異性のうわさ話をするとか、そういうようなイラスト入りのものが幾つかあって、それに関して当てはまるものはどれか丸をつけてみようというような、アンケート式でそういう項目を載せている教科書もあるのですね。例えば、東京書籍とか、文教社とか。一方、光文書院とか、学研などは異性に関心が出てきますというような説明だけで、当てはまるものはどれかというような問いかけはないと。細かいところで、どうでもいいようなことなのかもしれませんが、

私は、当てはまるものはどれかなとかと子どもに問いかけるということは、異性を意識するという意識させる、誘発するみたいな感じもあって、そんなに考えていない子もいるかもしれないのに、かえってそういうことを取り上げて意識させる、誘発するようなのは、余りよくないのではないかみたいな気持ちがあります。そういう意味で、アンケート式になっているのはちょっと抵抗があるというふうに思いました。

そんな点から、私は、学研の教科書がいいのではないかと。体操着というようなこともありますし、もちろん、そのほかいろいろな点が網羅的にちゃんと出ているとか、書き込み式で使いやすいというような点もあるのではないかということで、甲乙つけがたいところですけども、学研がいいかなという印象は持っております。

以上です。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

各委員のご報告のとおり、各社とも扱っている課題もほとんど一緒ですし、取り上げ方も大差ないということで難しい選択になってきているのですけれども、保健は自分が学校で習ったときには教科書も使わなかったのではないかなとか思ったり、男女の思春期の体の変化というのを3・4年生でやると、私たち50年近く前は、5・6年の6年生ぐらいで習ったかなと思うと、時代の違いを感じました。

そういう意味で言うと、扱い方はさまざまあるのですけれども、取り上げ方で、これは個人のとり方がみなそれぞれ違うのであれなのでしょうけれども、私は体操着とか、ジーパン、Tシャツというのだとかえって変化がわかりにくいかなというふうにも思いましたので、水着に抵抗がある先生もいらっしゃるかもしれないのですけれども、写真で見てとれるほうがわかりやすいのかな、水着のほうが説明しやすいかなというふうに個人的には受け取りました。

あと、中野の子どもたちが今の地域で生活していく中で、自分たちで一日の生活を規則正しく、安全や安心にも配慮し、健康にも配慮しということで、中野の子どもたちにとってどうかなと思うと、東京書籍が安全安心や地域安全マップ、犯罪被害というところでは結構丁寧に説明をしているのではないかなという印象がありました。

東京書籍については、「話し合ってみよう」「考えてみよう」とか、それから「ふり返ってみよう」というような流れが、ほかの教科書もそうですけれども、東京書籍はそれが一

番明確に流れているのではないかなというふうに思いました。特に時間数が少ない教科なので、こういうふうにめりはりがあったほうがいいのではないかなという印象でした。

それから、特に、見開きで結構説明ができていますので、ページを何枚も使っている分野もあるのですけれども、コンパクトに、見開きで一つの課題を説明するというような工夫もされているのではないかなということを東京書籍の教科書は感じました。

これに類似しているのが光文書院で、絵がわかりやすく、これも絵などで説明が簡潔にされていてわかりやすいのではないかなというふうに思って。これも思春期の体の変化が水着ですが。

以上の理由で、私は東京書籍、光文書院という順番で考えました。

飛鳥馬委員長

どうしても性差の表現というのに注目してしまっていて見ているのですけれども、皆さんから話があったとおり、普通の服を着たままというのは、多分、学研だけですよね。あとは何らかの形で、水着や、さらに裸もあるわけですから。これは、性差の変化がわかる、3・4年で大事だということで載せているのだと思うのですけれども、どこまでというのは難しいかなと思うのです。いずれにしても、さっき見たように理科の教科書で、もうちょっと、あと1、2年たてば5・6年でかなり詳しく出てくるので、非常に判断が困るところなのですが、私としては、極端でないほうが良いなと思っています。

それからあとは、個人差に配慮した書き方というのでは、どこの教科書ももちろん保健体育ですので、みんな人間一人一人違うということで、非常に尊重して書いてあるなというふうに思っています。それと同時に、友達を理解したり、仲よくなる、協力する、そういう観点では、東書か学研かという感じだと思うのです。どちらかという、学研がいいのかなと考えているのですけれども、ということです。

ほかに何かご質問とか、ご意見に補足はございますか。

今のところ学研か東書ということになると思うのですけれども、どうでしょうか。二つ挙げている方、一つの方、いろいろありますが。でも、学研、東書はどちらかに入りますね。

山田委員

皆さん方が指摘されました性差のことですけれども、小学校3・4年で取り上げてくる理由の一つは、今の子どもたちの体格がどんどん大きくなっていると。身長が大体145センチぐらいを超えてきますと初経が始まるというふうに医学的には言われています。この教

科書の中で出てくるグラフでは、小学校6年生ぐらいというのが2005年の調査で出ていますが、今はおおむね4年生ぐらいで初経が始まってくる。精通が始まるのは中学に入ってからの方が多いと思うのですけれども。

そういったことで、やはり3・4年である程度のことは教えていかなければいけない。それも男女一緒にということであります。初経のことを詳しく書いて述べているのは、学研ですとか、大日本図書であったりするのですね。東書はちょっとそこが弱いかなという気がします。図とか、絵とかという話は、それはまた別の話ではないかなと私は思いますので、その辺が学校の現場の中で、できれば保護者を交えてこういったものの教育ができればということではありますので、学研とか、大日本図書などの記載がその点はすぐれているのかなという思いをしております。

今学校の現場に行きますと、子どもたちは3・4年でこういうことを学びとって、かなり一生懸命このことを学んできていますね。また、5・6年になって振り返って、去年習ったことをもう一度振り返るようなこともあるので、そういった視点では大切なことかなと思います。ですから、そういったことで、教科書が意味するものは保健では大きいかなと思いますので、時間数は少ないですけれども、そういったことがとらえられている教科書としては、学研などはかなりすぐれた教科書ではないかなと思います。

以上です。

飛鳥馬委員長

山田委員が性教育とかで学校に話に行く場合に、小学校でいうと、3・4年に話すということはあるのですか。5・6年が多いのですか。

山田委員

私が今授業を持っているのは5年生です。ですから、3・4年で習ったことを振り返って、私の持っている小学校では、5年生で保健師さんが来て健康の話をして、助産師さんが入って生命の誕生の話をする。私は最後に皆さん方がどのように成長してきたかということ、もちろん男女の発達の仕事方を踏まえてもう一度、振り返っていくような授業をしていますので、子どもたちはかなりしっかりしたことを、例えば、卵子とか、精子という言葉をしっかり覚えていますし、どこでそれが成長するのかということも会得していますので、教科書に沿ってきちんと授業がなされているというふうに私は感じております。

飛鳥馬委員長

ほかはどうでしょうか。

私も、できれば早く指導したほうがいいのだらうと思うのです。性教育の専門家と話を
して聞いたことがあるのですけれども、その方は性教育の専門家で女性なのですが、「ある
程度、年齢が大きくなってしまうと自分の子どもにも言えない」と言っていました。「高校
生は当然だけれども、中学生ぐらいでもなかなか言えないので、買って来た本を部屋の中
に放り込んでおくぐらいしかないのですよ」と、「話して聞かせることは無理なのですよ」
という、そういう話を聞いたことがあるのです。

だから、そういうことと言えば、早目にそういうことを指導したほうがよいというこ
なののだらうと思うのですけれども、どうでしょうか。皆さんいろいろそういう話とか、経
験とか、いろいろあると思うのですが。

教育長

全体的に学研というような流れになってきているのかなと思いますが。

私は、学研というよりは、さっきも言ったように、東京書籍や光文書院かなと思ったの
ですけれども、今の思春期の体の変化を中心にお話をされていて、それもすごく大事だ
と思いますし、工夫して教えていく必要もあると思っているのですけれども、このことにつ
いては、保健の授業だけではなくて、移動教室の前に個別に指導するという時間があつた
りもすると聞いていたり、それ以外に道徳とか、さまざまな領域の中でも扱っていくもの
だと思うのです。ただ、今学研の教科書だけではないのですけれども、皆さんが支持をさ
れるということでは、保健の教科書として全体を見て、健康であるとか、さまざまな
安全安心を阻害する要因から自分を守って、きちんと健全なる心と体を成長させていく
ということを学んでいく分野として、全体を見て、もし何かさらに学研がいいとかあるの
でしたら、ご意見をいただければなと思います。

飛鳥馬委員長

どうでしょうか。

山田委員

一つは、ほかの教科との兼ね合いということが、例えば、先ほど皆さんで協議した理科
の教科書で、お母さんのおなかのなかの胎児の様子というのをかなり詳細にどの教科書も
取り扱っているのですけれども、そんな観点からいきますと、光文と学研は、「新しい命」
というところで、発展のところからそういったことが出てくるのです。そうすると、この次
は理科の教科書で関連づけていく。要するに、保健とか、性教育というのはいろいろとオー
バーラップして教えるということも大切なことで、そういった意味でも使いやすい教科書

かなという視点は一つあるかなと思っております。

あと、先生がおっしゃるように、移動教室の前などは、養護教諭が中心となって、女の子たちには丁寧に教えていますけれども、最近はかなりフランクですよ。養護の先生が男女の中に入って説明するようなこともあって、でも、男の子もきちんと授業で習っているので、初経ということはわかっていますので、そんなにみんな恥ずかしながら聞いています。男女共同参画ではないですけども、そういったことは学校の現場では起きています。

飛鳥馬委員長

ほかに何かありませんか。

教育長からさっき、安全安心とか、話し合いというのでは、東書がいいというふうに言われていましたけれども、ほかのところではそれはどうでしょう。何らかの形でみんな出てきてはいますけれども。学研などもかなり、5・6年のところの26ページぐらいから、病原体、病気といろいろ出てきています。「生活のしかたと病気」、それから「喫煙の害」ですね。「薬物乱用の害」、「飲酒の害」と、これはかなり集中的に出ています。

山田委員

教育長がおっしゃっているようなことは一理ありまして、地域の安全マップを各学校でつくっている経過があるのです。それに沿っているのは、確かに東書は、5・6年の25ページですか、地域安全マップというのを実際につくっている様子が出てくるのです。この辺は、中野の子どもたちに即したことはないかなと思います。一方で、学研も5・6年の19ページには安全マップをつくってみようというような単元も一応あるので、どちらもその辺はきちんと取り上げているかなと思います。これは大切な単元ではないかなと私も思います。

飛鳥馬委員長

今のことで指導室長、安全指導、登下校の安全とか、安全マップという話になると、5・6年で出てきているといいますけれども、登下校の安全という意味では、1・2年でかなり集中的に最初、やるのではないのでしょうか。それはどうでしょうか。

指導室長

教科の指導ということではなくて、生活指導ということで、入学時から登下校の安全というのは、生活科のほうにも先ほど載っておりましたけれども、徹底して指導しております。安全マップづくりについては、学年によっては、子どもたちがつくっていくというこ

ともございます。

飛鳥馬委員長

つくるためには、5・6年にならないと地図まではなかなかつくれないのですか。

指導室長

2年生で地域探検をやったり、3年生で地域学習をやったりします。ただ、実際に安全、ここが危険だとか、どうだという見方についてはもう少し学年が進んだほうがわかりやすいし、あとは、教員やほかのアドバイザーがどういう指導ができるかということが必要だと思います。

飛鳥馬委員長

低学年は安全指導だけれども、中学年以降になると安全学習、自分たちが学ぶと、そういう意味があるのですね。わかりました。

それでは、よろしいでしょうか。

教育長もよろしいですか。

教育長

思春期の体の変化などは皆さんのご意見でうなずけるところもありますので、そういう意味でいうと、他の教科との関連でいえば、学研が使いやすいかなというふうには思いました。

飛鳥馬委員長

わかりました。ありがとうございました。

それでは、ほかの意見はよろしいですか。

それでは、各委員さんのご意見とともに、教科書採択基準から申し上げますと、学研教育みらいが適切であると思いますので、保健につきましては、学研教育みらいの教科書を採択候補とすることで異議がございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

異議がありませんので、保健は学研教育みらいを採択候補といたします。

それでは、次が最後になります。

それでは次は、特別支援学級で使用する教科書等について協議を進めます。

指導室長から説明を受けたいと思いますので、よろしくお願いします。

指導室長

それでは、この後、特別支援学級で使用する教科用図書についてご協議をお願いいたします。

最初に、特別支援学級で使用いたします教科用図書について概略をご説明いたします。

特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、学校教育法附則第9条及び学校教育法施行規則第139条に基づきまして、文部科学大臣の検定を経た教科用図書または文部科学省が著作の名義を有する教科用図書以外のものを使用することができるというふうになってございます。いわゆる一般図書ということでございまして、書店でも手に入るものを使用することができるということでございます。

また、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則では、「当該特別支援学級を設置している区立学校の校長の意見を聴くものとする」という規定がございまして、それに基づきまして、お手元でございます、「平成23年度使用一般図書の採択希望一覧」というものを提出しているところでございます。

また、この一般図書につきましては選択の幅がかなり広いということから、都道府県単位で調査研究を行うことになっております。それを受けまして、東京都教育委員会では、特別支援教育教科用図書選定調査資料というものを作成いたしまして、区教委を通しまして、当該の各学校に送っているところでございます。各学校はその中で取り上げているものの中から選定をして、ここにございます希望を上げていただいているということになります。

それでは、ここにございます希望一覧に沿ってご説明を申し上げます。

まず、1枚目のところでございますのは、桃園小学校でございます。国語で見てくださいますと、各学年、1年生から3年生までについては、検定教科書ということでの希望になっております。発行者につきましては、採択がまだ行われておりませんので、未記載ということになってございます。4年生・5年生・6年生につきましては、同成社という発行者の「ゆっくり学ぶ子のための『こくご』」の1・2・3ということで、4・5・6年が使用するということでもあります。書写についてはすべて検定の教科書を使うと。このような形で、2枚目までが桃園小学校。

3枚目の新井小学校の国語でございますが、1・2・3・4・5年生までにつきましては、発行者が文部科学省の「こくご☆」「こくご☆☆」「こくご☆☆☆」と、いわゆる「星本(ほしぼん)」というものでございますが、これは文部科学省が著作をしているものでございます。前のテーブルに一般図書の一部と、それから星本と言われる国語と音楽のもの

がございます。手前でございますのが、星本という、文部科学省の著作のものでございます。

今ごらんいただきましたのが、新井小学校。次のページまでが新井小学校になりますが、その後、大和小学校、少し飛んでいただきまして、江原小学校というふうになっております。江原小学校の次が丸山小学校。肢体不自由学級ということで、1年生から6年生ということで、すべて同じような形で希望が出ております。丸山小学校の次が西中野小学校。国語・書写・社会ということで、また算数・理科・生活・音楽・図工・家庭・保健まで出ております。最後の4枚が第二中学校から第四中学校、第七中学校、緑野中学校でございます。このように各学校の校長から希望が出ているところでございます。

ご説明は以上であります。

飛鳥馬委員長

それでは、ただいま説明をいただきましたけれども、ご質問ございますでしょうか。

私からいいですか。

最初の桃園小学校でしたか。検定教科書から選ぶということは、今私たちが選んでいる、中野で採用するものから選ぶということでよろしいのですか。別の教科書を選べるのでしょうか。

指導室長

中野区として採択した本ということになります。

飛鳥馬委員長

同じものということですね。

指導室長

はい。

飛鳥馬委員長

それからもう1点ですが、小学校の新1年生の場合に、特別支援ですので、多分これは子どもの能力に合わせて選ぶということをやっていると思うのですが、新1年生の場合には、上がってくる子どもの様子をどこかから情報を得て決めているのかどうか、その辺はわかりますか。

指導室長

具体的にはどのお子さんが入るというのはまだ確定をしていないところではありますけれども、これまでの経験の中から1年生についてはこういう教科書があればということで

選んでいるところでございます。

飛鳥馬委員長

ほかはいかがでしょうか。

高木委員

2ページの<注意>に書いてある、「『知的障害特別支援学校小学部の教科である生活』を希望する場合、『社会』『理科』『生活』『家庭』の各教科はとれないので留意する」と、その下の意味がちょっとわからないので、説明をお願いしたいのですが。

飛鳥馬委員長

2ページの下<注意>のところですね。

指導室長

実は、特別支援学級の教育課程は、ここがございます、知的障害特別支援学校小学部に準拠した教育課程と、それからもう一つは、いわゆる通常学級の教育課程をそのまま使うということができます。ここで言っている「生活」というのは、先ほど採択協議をしていただきました、小学校の生活という教科がございますが、実は、知的障害特別支援学校小学部にも生活という教科がございます。ここで言っている生活と小学校の1・2年生で使っている生活というのは違うものですよという意味がここに書いてございます。

飛鳥馬委員長

特別支援学校の小学部ということですね。普通の設置されている学級ではなくて。

指導室長

そういうことでございます。したがって、特別支援学校小学部の教科である生活というのは、1年生から6年生までやれることになっております。通常学級の生活は1・2年生だけということになっております。

山田委員

この特別支援学校の教科書のことなのですが、先ほど委員長からちょっとお話がありましたけれども、小学校新1年生の個に応じたというところで、実際に入学してみないとわからないケースも出てくる、そういった場合、現場は、図書の扱い方はどのようにされているのでしょうか。

指導室長

教科用図書としてご本人にお渡しするものはこの中でということでございますけれども、教室にいろいろな本がもう既にごございますので、採択する教科書以外に通常の学校図書館

から同じような形の図書を選んで使うということでございます。

飛鳥馬委員長

ほかはよろしいでしょうか。

高木委員

先般、子どもの進学の関係で、七中の特別支援学級を見学してきたのですが、習熟度の程度の中でグループに分かれてやっていて、グループによって学力がかなり違っていたなという印象を受けました。基本的には、今指導室長が説明されたように、教室にはこれ以外の教科書、あと、通常学級のものも置いてあって、使うことができるのでしょうかけれども、基本的にこれだとワイドレンジ過ぎて生徒の幅が難しいなという印象を持ったのですが、どうなのですか。

指導室長

おっしゃるとおりでございます。教科の中でも文字のお得意なお子さん、漢字のお得意なお子さん、読むことが難しいお子さん、いろいろございますので、この教科書だけでということはかなり難しいかなと思っています。先ほどお話したような備えつけの本と、それ以外に教員が自作しているプリントですとか、市販の練習用のプリントなど、そんなものを使いながら基礎的な部分を指導しているということがございます。

飛鳥馬委員長

なかなかぴったりというわけにいかないこともあるということなのでしょう。

ほかにはどうでしょうか。ほかはよろしいですか。

それでは、特別支援学級で使用する教科書等については、お手元の資料にございます教科書を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

ご異議がございませんので、ただいま説明のありました教科書を採択候補といたします。

それでは、これですべての種目につきまして協議が終わりましたが、採択候補の教科書について、協議した教科種目の順に確認をしたいと思います。

指導室長から確認をお願いします。

指導室長

それでは、11種目ございますので、順にお伝えをいたします。

国語・光村図書出版株式会社、書写・東京書籍株式会社、社会・教育出版株式会社、地図・

株式会社帝国書院、算数・東京書籍株式会社、理科・教育出版株式会社、生活・教育出版株式会社、音楽・株式会社教育芸術社、図画工作・開隆堂出版株式会社、家庭・東京書籍株式会社、保健・学研教育みらい。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

ただいま指導室長から説明がありました教科書を採択候補としたいと思いますが、ここで、全体を振り返りまして再度、教科種目ごとにご意見などがございましたらお願いいたします。

よろしいですか。

特にご意見がございませんので、ただいま確認した内容に基づきまして、来週、8月6日午前10時から開会予定の第24回定例会で議案として改めて審議したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

それでは、8月6日の第24回定例会で改めて審議をすることにいたします。

次に、採択結果の公表の時期、方法等について確認をしたいと思います。

それでは、指導室長、説明をお願いします。

指導室長

それでは、長時間、慎重なご審議をいただきましてありがとうございます。

今後の日程について確認をさせていただきます。

先ほどご報告申し上げましたように、採択候補の教科書が決まりましたので、来週、8月6日の定例会におきまして採択する教科書についてご議決をいただくこととなります。その後、このことにつきまして東京都教育委員会に報告をいたします。

また、採択結果につきましては、「教育だより」、ホームページ等で区民への周知を図ってまいりたいと思います。

また、この教科書採択にかかわる会議録等につきましては、公開の議決を次回いただいた後、会議録ができ上がり次第、公開するという予定になってございます。おおむね9月中旬ごろからの公開というふうになると思われま。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

ただいまの説明に何かご質問ございますでしょうか。

よろしいですか。

では、質問がないようですので、それでは、採択結果の公表の日程は、ただいま説明をいただいたとおりでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

「異議なし」という言葉がありました。

それでは、そのようにさせていただきます。

その他、何かございますでしょうか。

ないようですので、以上で、本日本日予定した議事は終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第4回臨時会を閉じます。ご苦労さまでした。

午後2時30分閉会